



10
8890

鎮邊附近戦闘詳報

歩兵第三十聯隊第二大隊

1238

自昭和十二年九月九日
至昭和十二年九月十日

鎮邊附近戦闘詳報

歩兵第三十聯隊第三大隊

一 戦闘ニ影響ヲ及ホセン天候氣象及戦闘地境ノ状態

二 天氣晴朗ニシテ僅カニ微風アリ

三 部落民ハ一般ニ遁走シアリテ其ノ影ヲ認メス

四 戦闘地境ハ一般ニ開闊ナルモ地隙多キ爲ニ地隙ニ遭遇

スルヤ遠ク迂迴セサレハ前進困難ナル所多ク攻撃前進

ニ困難ヲ來スモノ多シニ十萬分一地圖ニアリテハ地隙ハ殆ト

相違シアリ畑地ニ高粱ヲ主トスルモ生育一般ニ不良ニシテ

之カ爲殊更ニ行動ヲ阻害セラルコトナシ

山地ハ樹木ナク行動容易ナルモ地隙多シ

夜間月明ナク暗夜ナリ從ツテ夜間ノ行動ハ目標ナク地隙
多キ爲相當困難ニシテ所望ノ地點ニ前進セントスル場合
ニ於テハ豫想外ノ時間ト勞力トヲ要スル事多シ

ニ戦闘前彼我形勢

大隊ハ聯隊ノ第二線大隊トシテ九月八日以来鎮宏堡ニ集
結シアリシモ將來大同方面ヘノ前進ヲ顧慮シ歩兵一中隊
附一小隊ヲ差出シ黄土溝附近ノ要地ヲ占領セシメ支隊將
來ノ前進ヲ掩護スルト共ニ大同方向ノ敵情地形ヲ搜索
スヘキ命ヲ受ケ第六中隊(MG一小隊ヲ屬ス)ハ九月九日午後三

時鎮宏堡ヲ出發セシム

三各時機戦闘經過及之ニ關連セル隣接大隊ノ動作

ノ第六中隊ハ午後四時三十分韓家營子ニ達シ鎮邊東西

ノ高地線及白家溝北方高地ニ亘リ敵兵約二百陣地

ヲ占領シアルヲ知リ該隊ハ同地附近ヲ占領シ更ニ敵情

地形ノ搜索ヲ實施シアリトノ情報アリ

午後七時大隊長ハ聯隊長ヨリ左ノ命令ヲ受ケ直チニ

韓家營子ニ前進ス

命令ノ要旨

ノ第三大隊(第五中隊及BIA欠)ハ直チニ韓家營子ニ前進シ

第六中隊ヲ併セ指揮シ當面ノ敵情ヲ搜索スルト共ニ成リ得ル黄土溝附近ニ進出シ大同方面ノ敵ヲ偵察スヘシ

2 九月九日夜大隊ハ韓家營子ニ集結シ南方及東方ノ敵情ヲ搜索シ拂曉迄ニ黄土溝方向ノ敵情ヲ除キ要圖第一ノ如キ敵情ヲ知ル

3 九月十日拂曉更ニ黄土溝方面ノ敵情搜索ヲスルト共ニ第七中隊宮田小隊ヲシテ白家溝北方標高一三七〇高地ヲ占領シ大隊ノ黄土溝方面轉進ノ場合ニ於ケル掩護ヲ爲サレム

午前七時三十分小暮將校斥候ノ報告ニ依リ黄土溝東
 北方高地ニ兵力未詳ナルモ點々敵兵アリト雖モ標高
 一三七〇以北ニ敵兵ヲ見ストノ報告ニ接ス

之ニ依リテ大隊長ハ黄土溝方面ノ敵兵ハ微弱ニシテ北方
 山地ニ近ク行動セハ長城線以南ノ敵歩兵火ニ對シテハ
 大ナル損害ヲ受クルコトナク敵ノ北背後ニ進出スルヲ得ヘ
 ント判断シ先ツ黄土溝ノ西北方高地ヲ奪取スルノ
 決心ヲナシ聯隊長ノ承認ヲ受クルト共ニ聯隊第一
 大隊ノ主力ヲ以ツテ鎮邊東方山地ヨリ敵陣地側
 面ヲ攻撃スヘキ旨通報ヲ受ク

同時山砲兵聯隊吞村少佐ハ偵察ノタメ来著セル
ヲ以テ大隊長ノ企圖ヲ示シ攻撃前進ニ方リ鎮邊
方面ノ敵ヲ適時制壓ニ関シ協定ス

此ノ頃第五中隊ハ大隊ニ復歸ヲ命セラル

々午前八時三十分別紙第二ノ如ク攻撃ニ関スル命令ヲ下シ
要圖第二ノ態勢ヲ以テ午前九時十分攻撃前進ヲ開始

ス

敵ハ我カ攻撃前進ヲ開始スルヤ早クモ歩砲兵ヲ以テ我ヲ
射撃ス我ハ之ニ介意スルコトナク極力前進ヲ強行ス

此頃我カ山砲ハ韓家營子東北方附近ニアリテ豫メ

協定セル所ニ從ヒ鎮邊附近要點ヲ制壓シテ我カ前
進ヲ援助ス

同時頃宮田小隊ハ自家溝北方高地ノ小敵ヲ撃退シ
該地ヲ占領シテ以テ更ニ標高一三セロ方向ニ前進
セシメ大隊ノ右側ヲ掩護セシム

大隊ハ大營子西方地隙附近ニ於テ別紙第二ノ命
令ヲ下達シ要圖第二ノ如ク展開ス

此ノ時既ニ宮田小隊ハ標高一三セロ高地北方稜線
ニ進出シ勇敢ニ同高地ノ敵ヲ獨力攻撃テ實施ス

宮田小隊ハ標高一三セロ高地ニ突入シ十時四十分

之ヲ占領シ日章旗ヲ山頂ニ掲ク

依テ大隊主力ハ目標ヲ南方ニ変更シ午前十時一
 帯ヲ占領セリ

高地ニ在リシ敵ハ一部ノ死体ヲ遺棄シ西方及南方
 ニ退却セリ

大隊ハ同高地ヲ占領ス。高地南方ノ敵歩兵重火
 器並ニ砲兵ハ一齊ニ火力ヲ高地ニ集中ス

大隊ハ敵ノ集中火中ニ在リテ同高地ノ確保ニ努ム
 ルト共ニ要圖第三ノ部署ヲ以テ敵ノ退路遮断並ニ

西方及南方ノ敵情偵察ニ努ム

南部黄土溝ヲ占領セル第六中隊ハ敵ノ傳令ヲ射
殺シ別紙報告文ヲ提出セリ

午後四時頃聯隊主力ハ當大隊ノ成果ヲ利用シ本
夜第一大隊ヲ當大隊方面ニ轉進セシメ爾後聯隊ノ主
カラ以テ南方大同方面ニ進出スルノ企図ヲ明示セラル
時ニ第五中隊ハ聯隊主力ノ前進ニ伴ヒ大隊ニ追及シ
午後五時三十分頃大營子ニ到着ス

依テ長城線及其ノ南方ニ殘存シ頑強ニ陣地ヲ固
守シアル敵ニ對シ第五中隊ヲシテ攻撃手セシメ聯隊主

(1)

1247

力ノ轉進ヲ掩獲スルト共ニ長城線ニ沿フ夜間ニ於ケル敵ノ行動ヲ阻止セシム

第五中隊ハ命令ニ基キ直チニ攻撃ヲ前進シ大營子南方長城線ヲ午後七時占領、同地附近ニ在リシ百五十ノ敵ヲ潰乱セシム

大隊ハ薄暮更ニ大隊主力ヲ以テ南部黄土溝ニ移動シ夜間ニ於ケル退路遮断ヲ確實ナラシム

而シテ當面ノ敵ハ夜ニ入り退却ヲ開始シニ三十名ノ退却部隊ハ時々大隊主力ノ正面ニ衝突潰走ス當面ノ敵ハ九月十日拂曉迄全ク退却セリ

大隊ハ九月十日正午聯隊命令ニ基キ陽高ニ向フ
 轉進迄前夜ノ位置ヲ占領シ前面ノ敵情偵察ヲ
 實施ス

本戦闘ニ於ケル彼我ノ損害、鹵獲兵器、射耗彈
 別紙第四ノ如シ

將校職員表並戦闘参加人員表別紙第五ノ如シ

四 戦闘後ニ於ケル彼我ノ能心執力

大隊ハ前記態勢ヲ以テ依然當面ノ敵情ヲ偵察ス

特ニ小山少尉ノ率ケル將校乍候ヲ馬以南方高地ニ派遣ス

鎖邊附近ヲ占領シアリシ敵ハ九月十日拂曉迄全ク

退却シ午前九時迄ニ鎮川堡以北ニ敵影ナレ

大隊ハ午前十時陽高ニ向テ展進命令ヲ受ケ午後二時
大營子ニ集結陽高ニ至ル

五 戦闘成績

敵陣地ハ正面約五里ニ亘ル逆八陣地ニシテ鎮邊附
近ヲ據点トシテ攻撃防禦ヲ企図シアリシアラスマ

ト思考セララル

故ニ第六中隊ヲ捕獲セル通信文ニアル如ク此ノ方面
ノ敵ハ前戦闘ニ於テ見サル如キ頑強ナル抵抗
ヲナレ隣陣地奪取セラレ敵背後ニ進出スルモ依然

執拗ナル抵抗ヲ試ミマリ然ルニ當大隊ハ敵ノ意表ニ
出テ鎮邊方面ノ敵側背ニ進出シ敵ノ攻撃企図ヲ
破催セル爲遂ニ抵抗ヲ断念シ一舉大同方面ニ後
退セルモノト認ム

六 参考トナルヘキ事項

本戦闘ニ於ケル敵陣地ハ從來ト異リ比較的廣正
面ノ從深深キ軟單陣地ノ如キ部署ヲ採用シアリ
從來ノ敵ハ我カ斥候等現出スレハ直チニ射撃ヲ開
始シ到ル處陣地ヲ暴露セルモ今回ノ敵ハ比較的
射撃ヲ實施セス

近距離ニ近接シテ始メテ射撃ヲ實施セリ

又突撃ニ際シテ残存兵手榴彈ノ投擲距離ニ迄
後退スルコトナク手榴彈戰ヲ各所ニ於テ實施セリ

附録

- 植作命甲第四十号植田部隊命令 別紙第一
- 植作命甲第一号植田部隊命令 別紙第二
- 石原部隊報告文 別紙第三
- 彼我損害鹵獲兵器射耗彈一覽表 別紙第四
- 將校職員表並戰中参加人員表 別紙第五
- 鎮邊附近敵情要圖 要図第一
- 植田部隊攻撃部署要圖 要図第二
- 植田部隊態勢要圖 要図第三

0900
99

別紙第一

植作命甲第四十号

植田部隊命令

九月十日午前八時三十分
於韓家營子部隊本部

一約二百ノ敵ハ鎮邊附近並ニ其ノ東西ノ高地線ヲ

占領シアリ

猪鹿倉部隊ハ午前九時ヨリ當面ノ敵ヲ攻撃ス

之カ爲第一大隊ヲ以テ敵陣地ノ右側背ヲ第二大隊

ヲ以テ敵陣地ノ左側背ニ敵ヲ包圍スル如ク攻撃ス

山砲隊ハ韓家營子附近ニ陣地ヲ占領シ兩大隊

ノ攻撃ヲ協力ス

1990

ニ大隊ハ午前九時現在地出發本道北側地区ヨリ
鴛鴦嘴北方高地附近ニ進出シ敵ノ退路ヲ遮断
セントス

ニ第五中隊ハ現在地ニ位置シ砲兵ノ掩護並ニ大隊
ノ轉進ヲ掩護スヘシ

爾餘ノ部隊ハ左記態勢カラ以テ前進ス

右ヨリ第七中隊(一小隊欠附一小ヲ屬ス)第六中隊(一小隊
欠附一小ヲ屬ス)第一線 附主力第二線 36ハ第三線
基準中隊第六中隊
目標一三七〇高地

1254

2990

89

四大隊長ハ第一線兩部隊、中央前ヲ前進ス

部隊長

植田少佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

別紙第三

植作命甲第四十一号

植田部隊命令

九月十日午前九時三十分
於韓家營子西北方約一軒本部

一 敵情ハ諸官ノ目撃セル通り

宮田小隊ハ目下一三七〇高地ノ敵ヲ攻撃手中ナリ

二 大隊ハ當面ノ敵ヲ攻撃シテ先ツ王家營子 南部黄

土溝ニ進出セントス

其ノ重点ヲ左ニ保持ス

右ヨリ第七 第六 (所配属舊ノ如シ) 第一線

所主力第二線 第六中隊ノ後方ヲ前進スヘシ

8990

0901

1256

第七中隊ハ一三七〇高地ノ敵ヲ攻撃シ、第六中隊ハ
一三七〇高地南方ノ敵ヲ攻撃シ、附主力ハ特ニ第七中
隊正面ノ敵ヲ制壓シ第一線兩中隊ノ戦斗ニ協力ス

ヘレ

三、 $\frac{3}{36}$ ハ豫備隊トナリ右翼後ヲ前進スヘシ

四、各隊ハ攻撃準備ヲ完了セハ直チニ攻撃ヲ前進スヘシ

五、予ハ戦斗ノ當初第一線兩中隊ノ中央後ヲ前進ス

戦斗ノ進捗ニ伴ヒ逐次第七中隊ノ後方ヲ前進ス

部隊長 植田少佐

下達法、命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

別紙第三

石原部隊報告文

一 鎮邊附近ノ敵ハ飽々迄抵抗スル意志ヲ有スル
モ目下糧食缺乏ニ困難シアルモノ、如シ

二 該敵ハ獨立第七旅第六百三十一團ニシテ其ノ主力ハ鎮
川堡ニ戦斗司令所ヲ有スルモノ、如シ

三 該部隊ハ連絡用布板ヲ在大同主計ニ要求シアル
形跡アルヲ以テ大同方面ニ敵ノ飛行機若干アル
モノト豫想ス

孤山驛附近ニ敵ノ旅團司令部アルモノ、如シ

9990

然

以上ハ鎮邊方向ヨリ南部黄土溝ニ向ヒ自轉車
ニテ送達中ノ独立第七旅第六百三十一團本部ノ
傳令ヲ射殺シ得タル書筒ニ依リ得タル判断ナリ

73

1259

別紙第四

自九月九日
至九月十日

彼我、損害
鹵獲兵器
射耗彈

覽表

第二六隊

考 備	計	歩 兵 砲 隊	機 關 銃 中 隊	第 七 中 隊	第 六 中 隊	第 五 中 隊	本 部	中 隊 別 区 分	
								我	彼
一歩兵砲八本戦斗に参加ス	戦死 負傷			戦死 兵	戦死 下士官 負傷(重) 進士官	負傷(軽) 下士官		我	彼
	遺棄死体 六三		遺棄死体 九	遺棄死体 三五	遺棄死体 二二	遺棄死体 七		損	害
	小銃 七 手榴弾 二 青丸 二 空器 二 器具 若干			小銃 三 青丸 二 空器 若干	小銃 一 手榴弾 三	小銃 三 手榴弾 六		鹵 獲 兵 器	
	小銃 一 手榴弾 二 手榴弾 一 手榴弾 一		重機 二四	小銃 八 手榴弾 九 手榴弾 二 手榴弾 一	小銃 一 手榴弾 五 手榴弾 八	小銃 一 手榴弾 九 手榴弾 一 手榴弾 一		射 耗 彈	

74

1261

0990

6990

考 備 一〇印ハ重傷者ヲ示ス 二十日機關銃隊西野少尉着任ス	大隊本部												中隊長												小隊長											
	大隊長 少佐 植田 勇												大隊長 大尉 林 司馬 男												中尉 加藤 恒 安											
	副官 中尉 遠家 竜 市												大尉 石 原 英 夫												准尉 古 垣 兼 隆											
	主計 少尉 藤 田 三 吉												大尉 森 康 則												准尉 嘉 村 省 司											
軍醫 中尉 早 川 弘 郎												大尉 大 瀨 久												准尉 池 田 徳 治												
M G												7												6												
1												4 3 2 1												3 2 1												
准尉 傳 田 鹿 藏												准尉 龍 澤 嘉 長												准尉 木 暮 博 作												
												少尉 西 野 清 一												代 准尉 佐 藤 徳 蔵												
												少尉 大 類 仁 一												少尉 安 齊 實												
												准尉 桐 生 憲 司												少尉 宮 田 全 吉												
												准尉 滝 澤 嘉 長												准尉 石 原 清 一												

自九月八日
至九月十日
鎮邊附近
戰鬥終了

步兵第三十聯隊第三大隊將校職員表

1262

7/3

1263

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

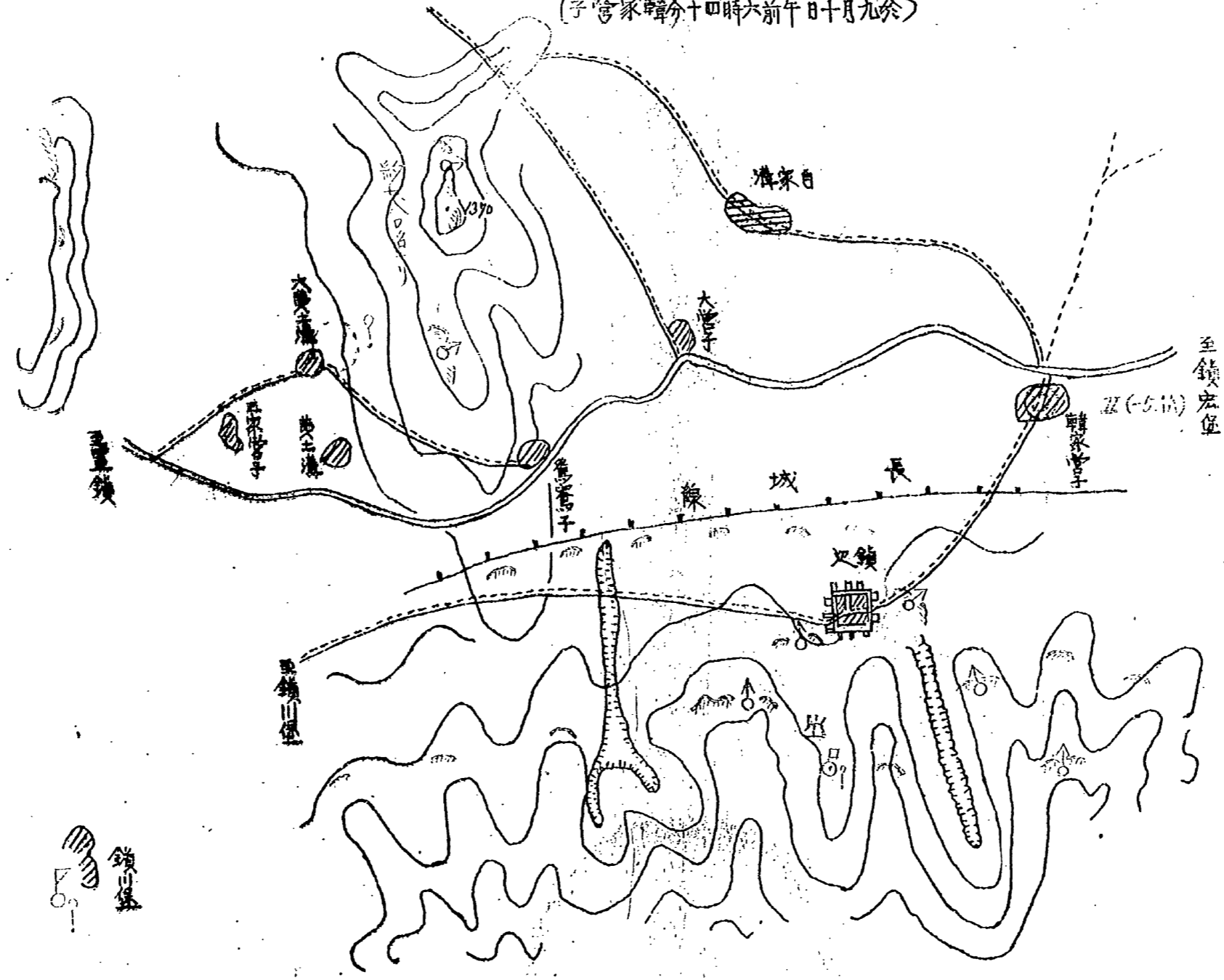
2990

鎮邊附近敵情要圖

(參九日十月六時十四分家營子)

要圖第一

50000



總兵力八... 判斷ス

1265

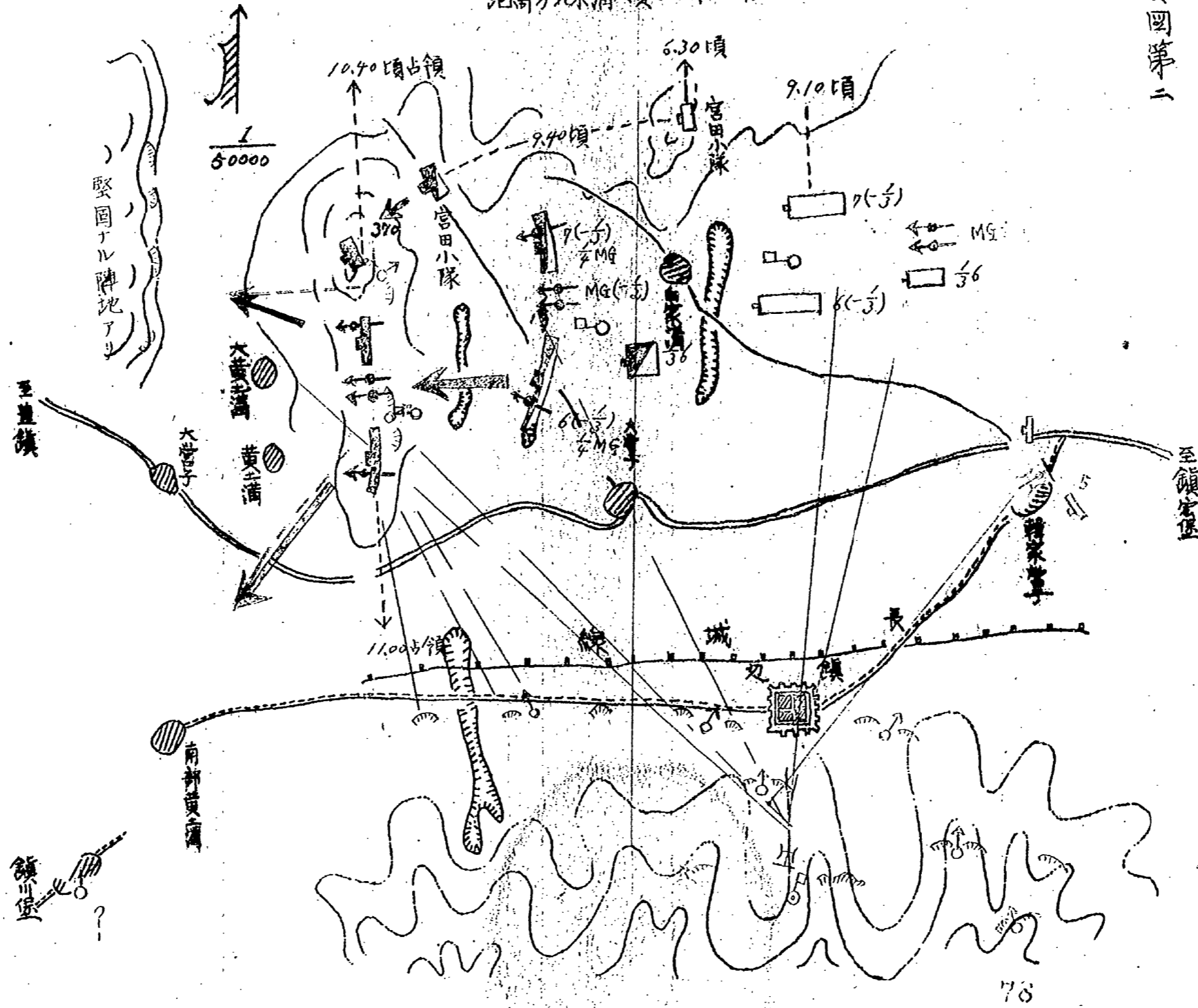
71

1266

8990

植田部隊政擊部要圖
於九月十日午前十一時分大浦北地方高

要圖第二



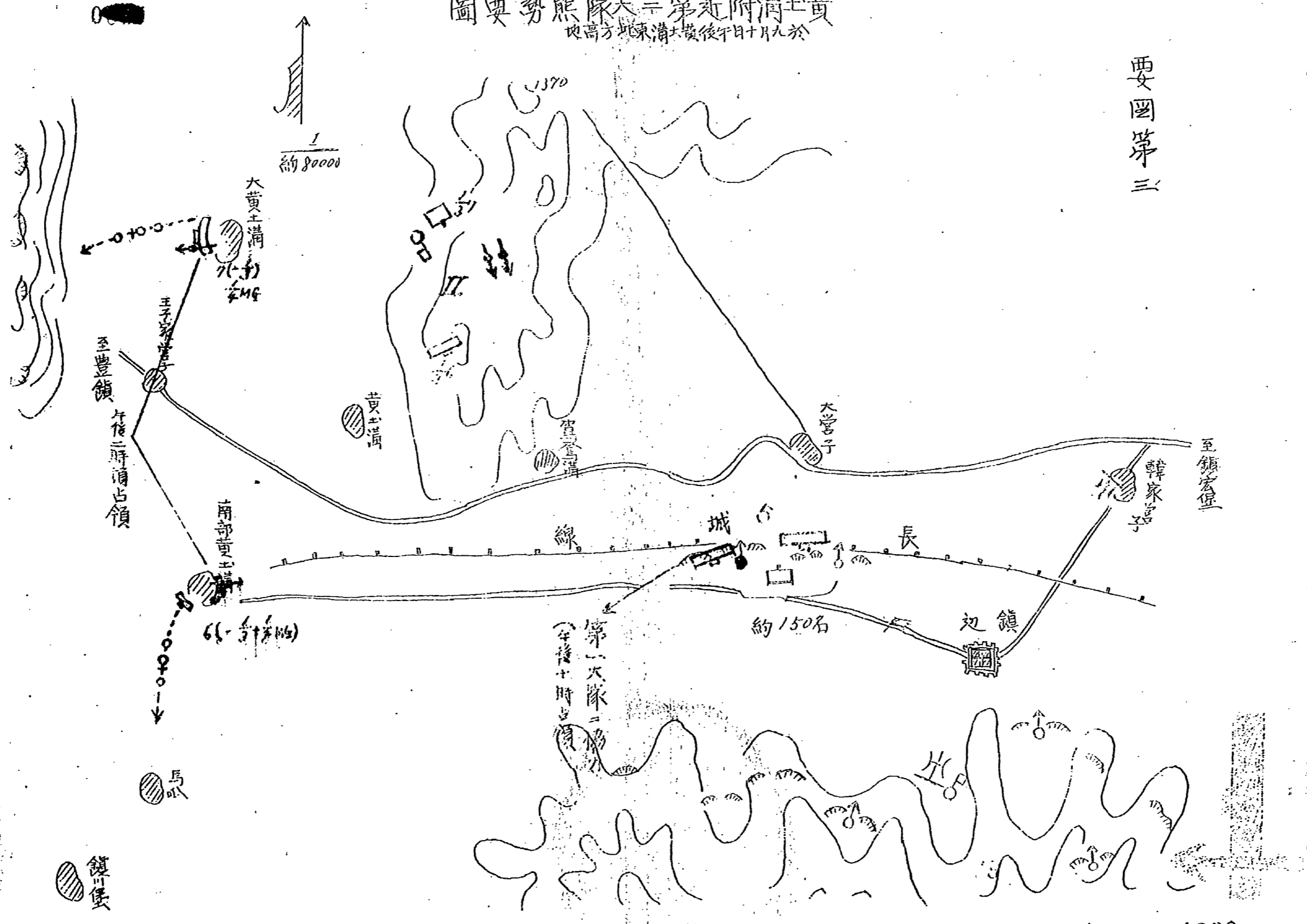
1267

1930

黃土溝附近第一大隊熊勢要圖

於九月十日午後黃土溝東地方高地

要圖第三



1268